

交渉NEWS

東日本ユニオン東京地本 NO, 3 1 2021年 2月25日

2月22日、申2号「2021年3月ダイヤ改正に関する申し入れ」の支社回答・交渉を行いました。今回の交渉は、新型コロナウイルス感染予防の観点から“時間的制約”“会場換気”など考慮した開催となりました。

地本交渉委員は、支社回答を受け個別論議を行う前段で「**規程、規則に定められている内容は、『労使で守るべき最低限のルール』である。**」ことを支社側に提起し、相互に確認しました。

《支社回答・交渉の主なやり取り》

〈基本共通要求〉

1、速達性・利便性・快適性向上を今ダイヤ改正では目標としている。新幹線・特急から在来線への接続時間を短縮すること。

列車ダイヤの設定はお客様のご利用状況や車両運用、設備条件などを考慮して作成している。

U-お客様の声をダイヤ改正に活かしているか、速達性・利便性向上とは

会-ご利用状況はコロナ禍で変化している、速度向上は利便性につながる

U-速度向上も乗り継ぎのロスで“マイナス”になっていないか、広く考えたダイヤ改にすべきだ

会-関係支社との連携・調整は必要であるとする

2、安全・安定輸送の提供には「乗務員」のモチベーションが不可欠であるとする。「社員」の不安を解消するために、不断かつ十分な質の高い双方向コミュニケーションを職場において実現すること。

引き続き、風通しの良い職場風土を醸成していく考えである。

U-「否定的現実」の報告もある

会-コミュニケーションは重要という認識に変わりはない

U-「風通しの良い」とは、具体的に

会-職場でのチャレンジや論議が闊達に行えること

U-職場管理者の資質が問われていると感じる、「社員へのフォロー・育成」などを考えるとか管理者の置かれている環境やバックアップを整えるべき

3、夜間作業に従事するすべての労働者の労働条件・労働環境を改善すること。

職場環境の改善については、引き続き社員およびグループ会社などの意見を聞きながら必要な対応を行う考えである。なお、グループ会社社員等の労働条件はグループ会社などで決定することとなる。

U-作業間合い拡大で工事日程や工程に変化はあるのか

会-具体的なものは聞いていない

U-昼夜逆転の生活などもっと考えるべきではないか

会-3K含め社員募集にも苦労している

U-作業や工程の変化など検証していく

4、終電時刻の繰り上げにより入区作業などが各駅で増加する。作業内容に見合った要員配置を行い社員の負担を軽減すること。

必要な要員は確保している。

U - 各駅で作業ダイヤ変更などの対応することになるが、無理はないか

会 - 警備会社からの応援などのある

U - 警備会社社員の年齢構成など考慮すべきと考える、検証していく

5、終電時刻の繰り上げで生じる入区後業務などの見直しで生じるグループ会社・グループ会社社員の負担を軽減すること。

グループ会社の体制については、グループ会社で決定することとなる。

U - 入区間隔が短くなり、入区後作業が煩雑になることが予想される

会 - G会社で作業内容は決定される、連携していく

6、新型コロナウイルス感染予防をグループ会社社員も含め万全を期すること。

新型コロナウイルス感染症については、グループ会社と連携し情報共有に努め、必要な対応を行っている。

U - 未だに、マスクすら配布されていないG会社もある

会 - これまで通りに感染対策に万全を期する

7、各区のダイヤ改正に関する委員会やプロジェクトの活動を公開とすること。加えて社員からダイヤ改正に関する意見を聴取すること。

区所におけるダイヤ改正プロジェクト等を通じて社員の意見を集約していく考えである。

U - 具体的なモノは

会 - 作業を通じた人材育成を行う

U - “人材育成”の成果は

会 - 経験を活かした“支社への転勤”などがある

U - ダイヤ改正における守秘義務はあるのか、その対象は

会 - 労働組合に「成案」を提案する前まで、ダイヤ改正にかかわる職場に社員

U - ダイヤ改正において社員の声を聞くという考えはあるか

会 - PJ など出来る、トレースにも反映される

U - “誰の声”を聞いているのか分からない、“選ばれたひと”だけが発することができるのか

会 - 意見は伺った

8、「睡眠時間」は、安全を考慮した時間を確保すること。（8～11は共通論議）

乗務割交番作成規程に基づき行路を作成している。

U - 「実枕時間」の拡大を求める

会 - 規程の範疇で

U - 規程は最低限の守るべきルールは共通認識と確認した

マネージメントする側でもっと行うことはないか

会 - 大田運輸区では着発6h10m程度も内容を半数程度見直すために持ち替えを行った

U - “何かあれば…”会社にも責任の一端もあるのでは…、もっともっと改善を考えるべき

9、「起床から退区まで」の乗務時間は、安全を考慮し設定すること。

列車ダイヤの設定や効率的な運用を勘案し、行路を作成している。

10、2時間を超える連続乗務は、体調管理の観点から起床直後や食事直後を避けて設定すること。

乗務割交番作成規程に基づき行路を作成している。

11、「食事時間」は、適正時間帯において拡大すること。

乗務割交番作成規程に基づき行路を作成している。

12、乗務主務・乗務主任・乗務指導係・乗務係に行うとしている「担当業務間の相互運用」について、実施箇所・実施時期・教育計画などを明らかにすること。

社員の運用については、就業規則に則り取り扱うこととなる。

U-東京支社では行われているのか

会-ない

U-計画はあるか

会-教育などが整い次第

U-実施に際して新たな提案はあるのか

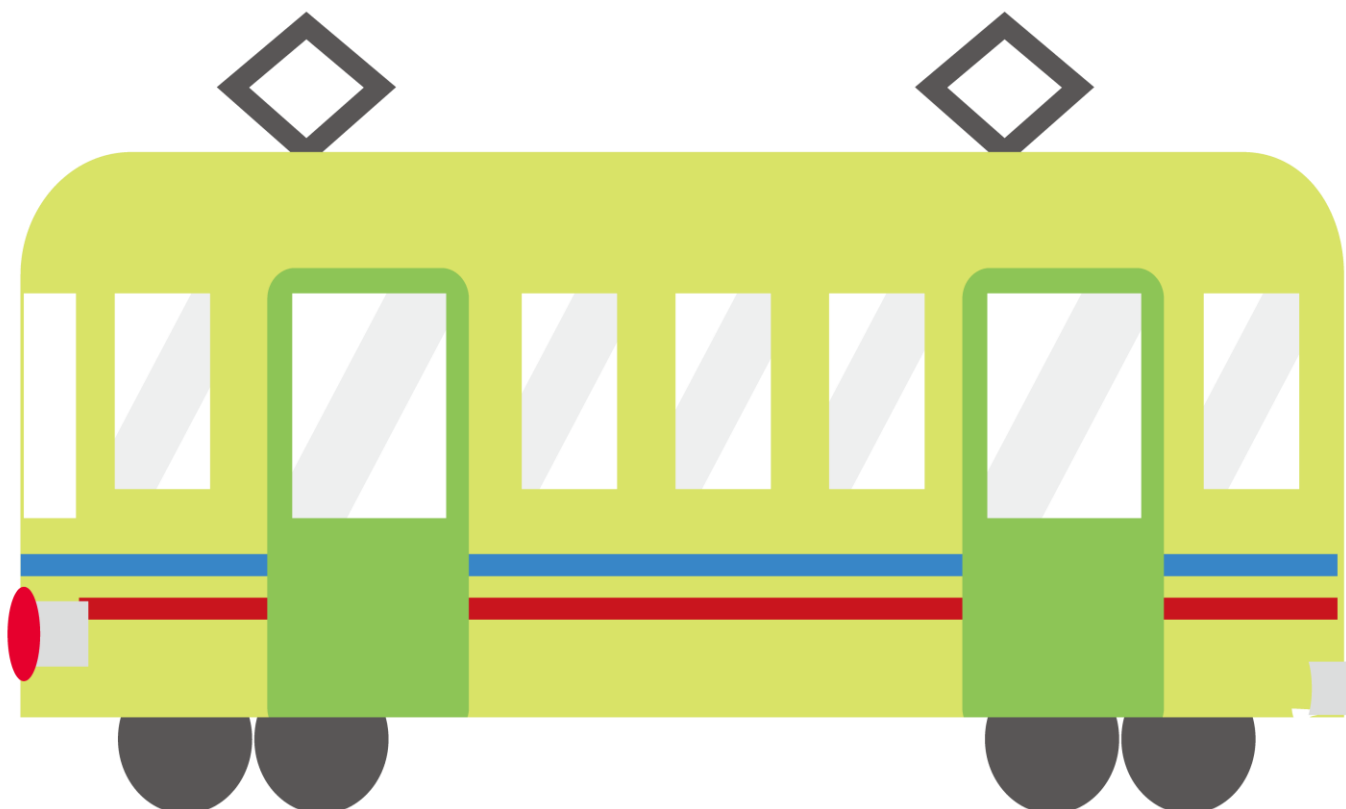
会-考えてはいない



13、「養成区」に多くの見習が配属となり、寝室・食堂・詰所などはそのキャパシティをオーバーすることが想定される。配属数を再考するなど抜本的見直しを行うこと。

配属については、関係箇所と調整のうえ決定している。

※「現場は大丈夫と言っている」が支社側の基本姿勢でした。職場の仲間たちの声とは相容れないものでした。よって、新たな申し入れの提出も視野に取り組みを進めます。



〈各区要求〉

1、埼京線各駅において新幹線騒音で案内放送が聞き取れない事態が発生している。新幹線速度向上に伴い、「騒音対策」を講じること。

新幹線の速度向上による影響は低いと考えている。

U-1 度職場を見てほしい

会-お客様の声はあがっていない

2、我孫子運輸区2階「食堂部分」の流しを使用状況に見合うように改善すること。

現状で対応されたい。

U-1 度職場を見てほしい

会-「混雑する時間はある」という職場から聞いている、

3、蒲田駅南行運転士詰所のソファを修理すること。

必要な設備の整備は行っていく考えである。

U-「修理」を望む

会-話は聞いている

4、三鷹駅朝通勤時間帯において、中央総武線各駅停車と東西線直通列車の偏りのある発着を見直すこと。

列車ダイヤの設定は、お客様のご利用状況や車両運用、設備条件等を考慮して作成している。

U-コロナ禍でお客様は減じているが「危険」を感じる

会-了

5、中野駅3・4番線乗務員詰所にトイレを設置すること。

現時点でトイレを新設する計画はない。

会-関係部署に伝える

6、三鷹駅1・2番線乗務員詰所を建て替え、トイレを設けること。

現時点で詰所及びトイレを新設する計画はないと聞いている。

会-関係部署に伝える

交渉では、大きな前進を勝ち取ることは出来ませんでした、「規程・規則に定められた内容は労使で守るべき最低限のルール」という点を労使で確認したこと。乗務員のことを考え「食事時間・睡眠時間」を拡大するために“スジ”の持ち替えを行っていること。労働環境改善に取り組む姿勢をしめたこと。などを感じることが出来ました。

職場環境改善において『職場から挙がってきていない!』という支社側の発言が多々ありました。「要求」を地本で取りまとめると同時に職場管理者とシッカリ・キチンと話をしていかなければならないことを痛感しました。

今後は申2号を基に『ダイヤ改正検証』を“職場感覚”で行い、問題点の克服と私たちの要求を実現する取り組みに繋げていくこととします。

